

S C E N A R I O

ヴァルフィッシュ

最初にお読みください

このファイルは、『アルシャードフォルティッシモ (以下、ALF)』のシナリオである。プレイヤーとしてこのシナリオを遊ぶ場合は、本ファイルを読まないこと。本ファイルを利用して『ALF』のセッションを遊ぶためには、基本ルールブックである『アルシャードフォルティッシモ』(発売:エンターブレイン)とサプリメントである『ヴァーレスライヒ (以下、WAR)』(発売:ゲームフィールド)が必要になる。

シナリオの読み方、ルール用語、ゲーム用語などはすべて『ALF』に準じている。必要に応じてルールブックを参照すること。

なお、文中の(『ALF』P*)は、『アルシャードフォルティッシモ』のページを、(『WAR』P*)は、『ヴァーレスライヒ』のページを示している。

■ STAFF LIST

シナリオ監修: 鈴吹太郎

シナリオ執筆: 山本剛 / 伊藤和幸

イラスト: 譲原やよい

編集: 遠藤卓司

DTP: 佐藤たかひろ

初出: ULTIMATE STORIES JGC2002 45時間耐久RPGシナリオ集『ヴァルフィッシュ』

本ファイルの著作権は(有) ファーイースト・アミューズメントリサーチおよび井上純弉に帰属します。本ファイルを許可なく改変、商業目的利用、および転載することを禁止します。



ヴァルフィッシュ

本シナリオは、帝国軍にさらわれたソフィー・ウィルマーを助け出すと同時に、帝国軍の新型戦艦を破壊するシナリオである。

プリプレイ

■シナリオ・データ

プレイヤー：3～5人
PCレベル：3
プレイ時間：3～4時間

■シナリオ背景

反帝国組織プリムローズの“顔”にして、リーダーであるハンスの妹、ソフィー・ウィルマーが、帝国軍によって捕らわれてしまった。そして、捕らわれたソフィーは、帝国軍の新型戦艦“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”へと移送されてしまう。

“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”に閉じこめられたソフィーは、プリムローズ本拠地の白状するように脅迫を受けるが、彼女はそれに耐え続けた。

このソフィーの懸命の抵抗に、“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”艦長であるランゼルの、恐るべき方法でソフィーから情報を引き出そうとする。“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”の持つ恐るべき破壊力によって、街ひとつを壊滅させた上に、ソフィーが沈黙し続ける限り、さらなる攻撃を行なうと脅迫を行なったのだ。

多くの生命を人質に取られて苦悶するソフィー。クエスターであるPCたちは、捕らわれのソフィーを助け出すことができるのか。

本シナリオは、“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”とその艦長ランゼルを倒し、帝国軍に捕らわれたソフィーを助け出すことで終了する。

●今回予告

GMは、キャラクター作成を行なう前に以下の「今回予告」を読み上げること。これは、シナリオのイメージを膨らませるのに役に立つ。

反帝国組織プリムローズ。
その象徴たる少女、ソフィー・ウィルマーが真帝国に捕らえられた。

ソフィーが連れ去られた場所は、帝国の黒き鯨——新型戦艦“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”。
敵の渦中で責め苦しめるソフィー。

おぞましき力を秘めた黒き鯨の腹中より、クエスターたちは捕らわれたソフィーを助け出すことができるのか。

『アルシャード f f』
「ヴァルフィッシュ」

そして今、キミは神話を超える。

■キャラクター作成

今回予告を読み上げた後、ハンドアウトをコピーして切り離し、各プレイヤーに配布せよ。どのプレイヤーにハンドアウトを渡すかは、GMの任意にしてもよいし、プレイヤー間で選択させてもよい。プレイヤーの人数が少ない時は、若い番号のものを優先する。

●ハンドアウト

ハンドアウトには、各PCによって異なる事前情報と、シナリオによってPCに与えられるコネクションが記載されている。

今回予告を読み上げたのち、GMはシナリオハンドアウトの内容を読み上げて、各プレイヤー

に配ること。その後、ハンドアウトに沿ってPCを作成してもらうとよい。

●クイックスタート

以下の5つのサンプルキャラクターをクイックスタートで使用することを推奨する。

- PC①：パンツァーリッター
- PC②：ウィザード
- PC③：エージェント
- PC④：ハンター
- PC⑤：ヴァルキリー

●コンストラクション

ハンドアウトに記載された推奨クラス以外に、

ファイター、スカウト、ホワイトメイジ、ブラックマジシャンの基本4クラスはPC全体で各1レベル以上取得するのが望ましい。

- PC①：指定なし
- PC②：指定なし
- PC③：エージェント
- PC④：ハンター
- PC⑤：指定なし

●メインプレイの前に

キャラクター作成後に、PCの自己紹介を行ない、その後PC間コネクションを結ぶこと。結び方は以下の通り。

PC①→PC②→PC③→PC④→PC⑤→PC①

PC①について

PC①にはランゼルのかつての部下だったという設定がつく。そのため年齢はなるべく若いほうがよい。ベルガーの年齢が45のため、PC①の年齢はそれ以下であることが望ましい。

オープニングフェイズ

●シーン1：絶体絶命

シーンプレイヤー：PC①

◆解説

ソフィーとPC①が“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”に捕らわれているシーン(*)。なおこのシーンでは、PC①の装備(*)は奪われており、「コーリング」などの装備を呼び出す特技も使用できないものとする。

PC①とソフィーは、別々の独房に入れられているところに、帝国兵を連れたランゼルが姿を現わす。

ランゼルはPC①との再会に、懐かしむように話しかける。会話が一段落したところで、ランゼルはソフィーの前へと行き、ソフィーを独房から出して、連れ去っていく。

▼描写

帝国軍戦艦の独房。隣の独房に閉じこめられているソフィーとともに、脱出の機会をうかがっていると、幾人もの帝国兵に囲まれて、ひとりの威風堂々たる姿の男が現われた。

その男の姿にキミは衝撃を受ける。なぜならその男が、キミのかつての上司、ランゼル・ベルガーだったからだ。

▼セリフ：ランゼル・ベルガー

「久しいな、PC①。お前が帝国軍を去ってからどれほどの時がたったか」

「愚かなことだ。偉大なる皇帝陛下に背信し、反帝国活動に身を堕とすとは」

「お前ほどの力があれば、私をも超え、最強の帝国兵のひとりとなれたであろうに」

「だが、すべては過去の話だ。お前の生は、この“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”の中で絶えることになる。死までの残り少ない時間を後悔して過ごすがいい」

▼セリフ：ランゼルとソフィーの会話

「気分はいかがですか、反帝国の姫君。今日はあなたにお聞きしたいことがある」

「私は、あなたとお話するようなことはありません……」

「気丈な姫君だ。それでは私についてきていただく。あなたのその態度がいつまで続くか試させていただく」

◆結末

ランゼルがソフィーを連れて、独房から立ち去ったところでシーン終了となる。

PC①に【クエスト：ソフィーを取り戻す】を渡すこと。

●シーン2：兄として

シーンプレイヤー：PC②

◆解説

PC④は自動登場となる。PC②とPC④がハンスから、ソフィーの救出を依頼されるシーン。

シーン1：PC①が捕らわれている理由

PC①はソフィーの護衛として、彼女とともに行動していた。そこに“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”の襲撃を受けたのである。

他にもプリムローズのメンバーは何人かいたが、PC①とソフィー以外は全滅している。

シーン1：PC①の装備

ミドルフェイズのシーン5で、自動的に入手できることになる。状況に応じて、そのことをあらかじめ開示してしまってもよい。

ソフィー・ウィルマー



エキストラ (ホワイトメイジ)

プリムローズのリーダー、ハンス・ウィルマーの妹で、プリムローズのシンボリックな位置にいる少女。

争いを好まず、苦境の続く反帝国活動の中でも、話し合いによる自体の解決を信じ続けている優しくも、芯の強い性格を持つ。

昨今、プリムローズが武装闘争への道を進む中で、組織全体にまでその流れが波及せずにはすんでいるのは、彼女の存在に寄るところが大きい。

ハンスはPC②とPC④に、ソフィーと護衛のPC①が帝国に捕まったことを伝え、ふたりが"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"という戦艦に幽閉されていることと、その戦艦がウインカスターに停泊していることを教える。そして、PC②にソフィーの救出を依頼する。

▼描写

プリムローズの隠れ家のひとつ。隠れ家の中に設けられた会議室で、キミはハンスと対峙していた。ハンスが苦悶の表情で告げる。

「ソフィーとPC①が帝国に捕まった……」

そこには、レジスタンスのリーダーとして、ソフィーの兄としての、二重の苦しみが見え隠れしていた。

▼セリフ：ハンス・ウィルマー

「捕らえられたソフィーとPC①は、帝国の新型戦艦"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"へと移送されたようだ」

「"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"は現在、ウインカスターに停泊している。今ならばまだ潜入し、ソフィーを助けられるはずだ」

「この情報は私とごく数名の信用できるメンバー、そしてあなたたちしかいない」

「現在、プリムローズでは強硬派が勢いをつけている。今、ソフィーを失ってしまったら、穏健派をも、その流れに巻き込みかねない」

「最悪の事態になる前にソフィーを助け出してくれ。プリムローズのリーダーとして……、いや、ソフィーの兄として頼む！」

◆結末

PC②とPC④がソフィー救出の依頼を受け、ウインカスターへ向かったらシーン終了となる。

登場PCに【クエスト：ソフィーを助ける】を渡すこと。

●シーン3：闇の手

シーンプレイヤー：PC⑤

他PCは登場不可

◆解説

"青の"シェルリィからランゼルの討伐の命令を受けるシーン。

シェルリィはPC⑤に帝国の戦艦"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の背後に奈落の影が見えることを伝える。そして、その戦艦の艦長がランゼルという人物であることを伝え、PC⑤にランゼルの調査と、奈落到ちている場合、彼を打ち倒すように命じる。

▼描写

誰もが寝静まる深夜。キミのもとに一枚のコインが送られてきた。

コインを月光の下に置くと、その光は導師シェルリィの像を結んだ。

▼セリフ："青の"シェルリィ

「PC⑤よ、お主の使命を果たす時がきた」

「"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"……帝国が作り出した戦艦じゃ。この戦艦に秘められた強大なる破壊の力、その背後に奈落の気配を感じる」「"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を操るは、ランゼル・ベルガーなる帝国軍人じゃ。この男、奈落到ちているやもしれぬ」

「戦艦は現在、ウインカスターに停泊しておるとい。すぐに向かい、ランゼルを見極めよ。そして彼が奈落到ちているならば、必ずや打ち倒すのじゃ」

◆結末

PC⑤がシェルリィの命令を受け、ウインカスターへ向かったらシーン終了となる。

PC⑤に【クエスト：ランゼルの本質を見極める】を渡す。

●シーン4：ミッション No.R157

シーンプレイヤー：PC③

◆解説

PC③がウォンから"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"破壊の命令をされるシーン。

ウォンはPC③にヨルムンガルド社が作り出した新型戦艦、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"について話し、その破壊を命令する。

PC③が命令を受けると、ウォンはさらに、戦艦破壊用の爆弾とその扱い方を教える。

▼描写

G = M社、パトリック・ウォンの執務室。キミは上司であるウォンの呼び出しを受け、この場所へとやって来た。

ウォンが緊張感のない笑顔を浮かべて、キミを歓迎する。

▼セリフ：パトリック・ウォン

「よくきてくれたね、PC③。実はキミに頼みたい仕事があるんだよ」

「"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"って知ってる？」

「帝国軍の新型戦艦で、ヨルムンガルド社が造った戦艦なんだけど」

「今回の仕事はね、その"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を破壊なんだよ」

「このトランクに戦艦破壊用の爆弾が入ってるから、使ってよ。機関部に仕掛けて起爆すれば、戦艦丸ごと吹き飛ばせるらしいから」

「戦艦はウインカスターの西部方面軍の駐留地に停泊してるから、すぐに向かってね」

「潜入方法はキミにまかせるよ。キミならうまくやってくれるって信じてるからね」

◆結末

PC③がウォンから命令を受け、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"に侵入するために活動を開始したら、シーン終了。

PC③に【クエスト："シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を破壊する】を渡す。

ミドルフェイズ

●シーン5：合流

シンプレイヤー：PC①

◆解説1

他PCは描写2から登場可能となる(*)。登場難易度は8。PC①が独房を脱出するシーン。

PC①が独房に閉じこめられていると、帝国兵が現われる。帝国兵はPC①の処刑を執り行なうことを告げ、PC①を独房から出す。

この帝国兵はエキストラである。PCが倒すと宣言すれば倒せる。また、PC①の装備の保管場所も聞けば答える。

PC①が独房から出た後、帝国兵を倒し、脱出したら描写2へ移行する。

▼描写1

独房の中。ソフィーが連れ出されてからどれぐらの時間が経ったのか。再び帝国兵が独房へとやって来た。

帝国兵は独房の鍵を開け、中に入ってくる。「出る、PC①。貴様の処刑が正式に決定された。下手な抵抗はするなよ」

▼セリフ：帝国兵

「馬鹿な奴だ。帝国に逆らうから死ぬことになるんだ」

(帝国兵を倒した)「ば、馬鹿な。我々がこうも容易く……」

「ぶ、武器なら貨物ブロックに保管されている!頼む、殺さないでくれ!」

◆解説2

PC①が武器を取り戻すシーン。貨物ブロックを探索すると、PC①の装備が見つかる。また、これ以降《コーリング》などの装備を呼び出す特技も使用可能となる。

PC①が装備を取り戻したところで、戦艦全体が震え、戦艦が離陸する(*)と、ウィンカスターから出航する。

▼描写2

貨物ブロック。薄暗い室内に置かれたコンテナを調べていき、キミはようやく愛用の装備を発見、取り戻すことに成功した。

戦闘の準備は整った。はやくソフィーを見つけ出し、助けなくては。

◆結末

戦艦が出航した後、PC①がソフィーを探すために行動を開始したら、シーン終了。

シーン5：他PCの登場について

このシーン以降、PCたちはすでに“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”内に侵入しているものとする。

侵入方法は密航や変装しての潜入など、自由に演出してよい。

なお、なるべく多くのPCがこのシーンで合流するのが望ましい。GMは、描写2に入ったら、PCたちに登場できることを伝え、積極的に登場してもらうようにするとよい。

シーン5：戦艦が離陸する

“シュバルツ・ヴァルフィッシュ”はウィンカスターを出航し、テスト飛行もかねて帝国領内を飛行していくことになる。



●シーン6：暗黒の力

マスターシーン

◆解説

PCは登場不可。ランゼルは丁寧に、しかし威圧的に、プリムローズの本拠地を吐けとソフィーに迫る。ソフィーはそれを拒絶する。

それを聞いたランゼルは、艦橋に映し出されているモニターのひとつに映る街を標的に"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の主砲発射、この街を消滅(*)させてしまう。

▼描写

"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"艦橋。ソフィーがランゼルに気丈な表情で叫ぶ。

「殺すなら殺してください。わたしは何もしゃべりません！」

それを聞いたランゼルが、凄絶な表情を浮かべると、底冷えする低い声音で告げる。

「仕方あるまい。この戦艦の力を見ていただければ、あなたの頑なな心もほぐれるでしょう。主砲発射準備だ！」

▼セリフ：ソフィーとランゼルの会話

「な、なにをするつもりですか!？」

「話してただけぬなら、話す気にさせるまでのこと。そのために、そのモニターに撃ちついている街に犠牲になっていただく」

「そんな……!」

「これを見ても、あなたは沈黙を守れますか？」

主砲……発射!」

▼セリフ：ランゼル・ベルガー

(主砲発射後)「話す気になったかな。まだ沈黙するというなら、さらに犠牲者が増えることになるが、どうするかね?」

◆結末

ランゼルがソフィーに破壊された街の映像を見せつけ、プリムローズの本拠地を話さなければ他の街も破壊すると脅しつけたところで、シーン終了となる。

●シーン7：戦闘

シーンプレイヤー：PC②

◆解説

全員登場。ソフィーの居場所を探して、"ヴァルフィッシュ"艦内を移動する途中、帝国兵と遭遇するシーン。

PC②が"ヴァルフィッシュ"内部を探索していると、警備巡回中の戦闘機会と遭遇する。戦闘機会はPC②を侵入者と判断し、帝国兵を呼ぶと、襲いかかってくる。

戦闘を行なう。敵はゾルダート・ガンナー(『ALF』P200)×2、ライヒスリッター(『ALF』P200)×2、ズィーガーI(『ALF』P208)×1。初期配置は、PC全員で1エンゲージ。5m離れて、ライヒスリッター×2とズィーガーIで1エンゲージ。さらに5m離れて、ゾルダート・ガンナー×2で1エンゲージとなる。

敵をすべて倒したら戦闘終了となる。

▼描写

戦艦の内部通路。キミがソフィーの居場所を探るために移動していると、不運にも帝国の戦闘機械と遭遇してしまった。

戦闘機械が警報を発すると同時に、多数の帝国兵がやってくる。もはや、戦闘は避けられそうにない。

▼セリフ：帝国兵

「侵入者か! 逃がすな、殲滅しろ!」

「忍び込んだことを後悔させてやる!」

◆結末

戦闘終了後、その場から移動したらシーン終了となる。

●シーン8：新兵器

シーンプレイヤー：PC④

◆解説

他のPCの登場難易度は7となる。PCが端末を操作して、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の情報を手に入れるシーン。

PC④が通路を歩いていると、通路に設置されている情報端末を操作しているクルーを発見する。このクルーはエキストラである。PCが倒すと宣言すれば倒せる。

クルーを倒し、情報端末を調べれば、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の艦内情報(*)を手に入れることができる。これにより、ソフィーの居場所である艦橋と、爆破に最も適した場所である機関室、脱出艇の位置が分かる。また、そこにたどり着くための道順も知ることができる。

PCたちが情報端末を調べたあと、艦内に侵入者発見の警報(*)が鳴り響く。

▼描写

艦内は驚くべき広さであった。帝国が保有するどの飛空戦艦よりも大きいだろう。

不意に、クルーのひとりが端末機を操作しているのを見かけた。あそこなら、艦内の情報を知ることができそうだ。

▼セリフ：艦内放送

「侵入者あり! 侵入者あり!」

「ブロック02にて友軍負傷者発見!」

「警戒せよ!」

◆結末

情報端末を調べ、侵入者発見の警報が鳴り響き、艦内放送を演出したらシーン終了となる。

●シーン9：破壊工作

シーンプレイヤー：PC③

◆解説

PC③は登場不可。他のPCの登場難易度は10となる。船の機関部に爆弾を仕掛けるシーン。

機関部の巨大リアクターには、真っ黒な結晶体が収められており、心臓のように脈打ちながら奈落を生み出し、機関内部に循環させている。

シーン6：街を消滅

この街はランゼルがソフィーを脅すための演出として消滅される街である。GMは街の設定を自由に決定して構わない。

シーン8：艦内情報

解説の情報以外にも、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の人員やスペックについても簡単な情報が手に入る。これにより、艦長がランゼル・ベルガーであることが分かる。

また、この戦艦は、サイズ、火力、出力、すべての面において、帝国内に現存するどの戦艦をも上回っている。数値的にはケタが違う。だが、それと同時に、帝国のカバ技術によって叩き出せる数値をはるかに超えていることもわかる。

この異常なスペックは奈落の力によるものだが、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"に奈落が関係していることはシーン9で判明するため、ここで教える必要はない。

シーン8：警報

シーン3での戦闘の痕跡が見つかったためである。

PC③が爆弾を仕掛ければ、爆弾のタイマーが起動し、10分後に爆弾が爆発するようにセットされる。

彼はPC全員に甲板に来よう告げる。5分以内に現れない場合、誰かひとりでも欠けている場合、即座にソフィーを殺すという。

▼描写

機関ブロック。"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の心臓たる機関が恐ろしいうめき声のような駆動音を鳴り響かせている。

主要機関のリアクターの中では黒い結晶体が輝き、おぞましい黒いエネルギーを吐き出し続けている。

◆結末

PC③が機関部に爆弾を仕掛け、その場をあとにしたらシーン終了となる。

●シーン 10：艦橋の戦い

シーンプレイヤー：PC②

◆解説 1

シーン9に登場したPCは、戦闘の2ラウンド目のセットアッププロセスから登場可能となる。その他のPCは自動登場。PC②がソフィーを救い出すべく、艦橋にたどり着くシーン。

PC②が艦橋に入ると、そこにはソフィーの姿はなく、帝国兵たちがPCたちを倒すべく、待ちかまえている。

戦闘を行なう。敵はゾルダート×3。初期配置はPC全員で1エンゲージ。5m離れてゾルダート×3で1エンゲージとなる。

すべての敵を倒したら描写2へ。

▼描写 1

"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"艦橋。この場所にソフィーがいるはずだ。だが、艦橋に飛びこんだキミを待っていたのは、ソフィーではなく無数の帝国兵たちだった。

▼セリフ：帝国兵

「かかったな！」

「反乱軍の姫はもうここにはいない！」

◆解説 2

戦闘が終了すると、艦橋にモニターが出現し、ランゼルの姿が映し出される。また、ランゼルに拘束されているソフィーも映し出される。

ランゼルはPC全員に甲板に来よう告げ、5分以内に現れない場合、もしくは侵入者(PC全員)のうち誰かひとりでも欠けている場合、即座にソフィーを殺すと脅迫する(*)。

▼描写 2

最後の帝国兵が倒れると、艦橋にモニターが展開される。モニターに映し出されたものを見たキミは、緊張に包まれた。

なぜなら、そこに映し出された映像は、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"艦長のランゼルと、彼に拘束されたソフィーの姿があったからだ。

▼セリフ：ランゼル・ベルガー

「愚かなる侵入者に告ぐ！ 無駄な抵抗をやめ、甲板まで出てきたまえ」

「もし、5分以内に甲板に現れない場合、この捕らわれの姫君には死んでいただくことになる」

「逃げようとは考えないことだ。侵入者の誰ひとりがかけても、彼女の命はない」

◆結末

ランゼルの脅迫が終わったあと、PC②が甲板に向かったらシーン終了となる。

●シーン 11：幽霊

シーンプレイヤー：PC④

◆解説

全員登場。ランゼルからソフィーを取り戻すシーン。また、PC③がシーン9で仕掛けた爆弾が爆発するシーンでもある。

PC④が甲板に出ると、帝国兵を引き連れたランゼルと、彼に拘束されたソフィーが姿を現わす。ランゼルはPCたちの無力さを嘲笑ったのち、機械兵士にPCたちを殺すよう命じる。PCが何か動こうとすると、ソフィーを人質に動かないように命じる。

ただし、機械兵士がPCたちに攻撃しようとした瞬間、シーン9でPC③の仕掛けた爆弾が爆発し、戦艦が大きくゆれる。この衝撃で、ソフィーはランゼルの手を離れ、PCたちの方向へと放り出されてくる。

▼描写

キミは、ランゼルの脅迫によって甲板へとやってきた。甲板から下を探れば、海が見える。戦艦はいつの間にか洋上を飛んでいた。

ここから脱出するには海に飛び込むしかないが、それとても自殺行為である。

やがて、帝国兵たちとともに、ソフィーを人質にしたランゼルが現われた。

▼セリフ：ランゼル・ベルガー

「おのれの無力さを思い知るがよい」

(PC①に)「あの独房から逃れていたか……。なるほど、昔よりも腕を上げたようだな」

▼ソフィー・ウィルマー

「わたしはどうなってもかまいません！」

「あなたたちは逃げてください！」

◆結末

PC③の設置した爆弾が爆発し、PCたちがソフィーを保護したところで、シーン終了となる。クライマックスへ移行すること。

登場PC全員に【クエスト：ランゼルを倒す】を渡すこと。

シーン 10：ランゼルの脅迫

このシーンで行なわれるランゼルの話は、館内放送で行なわれるため、シーンに登場していないPCも、ランゼルの脅迫の内容を知ることができる。

クライマックスフェイズ

●シーン 12：洋上の決戦

シーンプレイヤー：PC①

◆解説

全員登場。奈落の力を解放したランゼルと対決するシーン。

爆発のショックで帝国兵の大部分はパニックに陥るが、ランゼル直下の機会兵士たちは微動だにしない。

"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を破壊されたランゼルは、怒りをあらわにし、PCたちを倒そうと襲いかかってくる。

戦闘を行なう。敵はランゼル、機械兵士×2とゾルダート・ガンナー×2となる。初期配置はPC全員で1エンゲージ。5m離れて機械兵士×2で1エンゲージ。さらに5m離れて、ランゼルとゾルダート・ガンナー×2で1エンゲージとなる。

なお、ソフィーは戦闘に参加しない。安全なところに隠れているため、PCが彼女を守る必要はない。

▼描写

機関部を破壊された帝国軍の黒き鯨は力を失い、ゆっくりと墜落を始める。「こざかしい真似を……！」

これまで冷静であったランゼルの声に、あらん限りの憎しみがこもる。

▼セリフ：ランゼル・ベルガー

「よくも"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を！この罪、キサマたちの命で償ってもらおうぞ!!」「見るがいい帝国に逆らう叛徒ども。我が身に宿りし力を！」

「これこそが奈落の力。真帝国を盤石なるものに変えるために、私に与えられた力だ」

「愚か者どもよ。奈落の間に飲まれて消えるがよい」

(PC①に)「独房を脱出し、ここまでたどり着くか。つくづく惜しいな……」

「PC①よ、そこまでの力がありながらお前は道を違えた。せめてもの情けだ。この私みずからの手で葬ってくれる」

(PC②へ)「その女を助けに来たか、プリムローズ。だが、それはかなわぬことだ」

「なぜなら、貴様は帝国の名の下に処刑されるのだからな」

(PC③へ)「G=M社のエージェント、私の"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"をこのような姿にしたのは貴様が……！」

シーン 12：PCが全滅した場合

PCが全滅した場合、ソフィーは再び捕らわれの身となる。ソフィーはプリムローズの情報を話すことはないが、そのため命の危険にさらされるだろう。

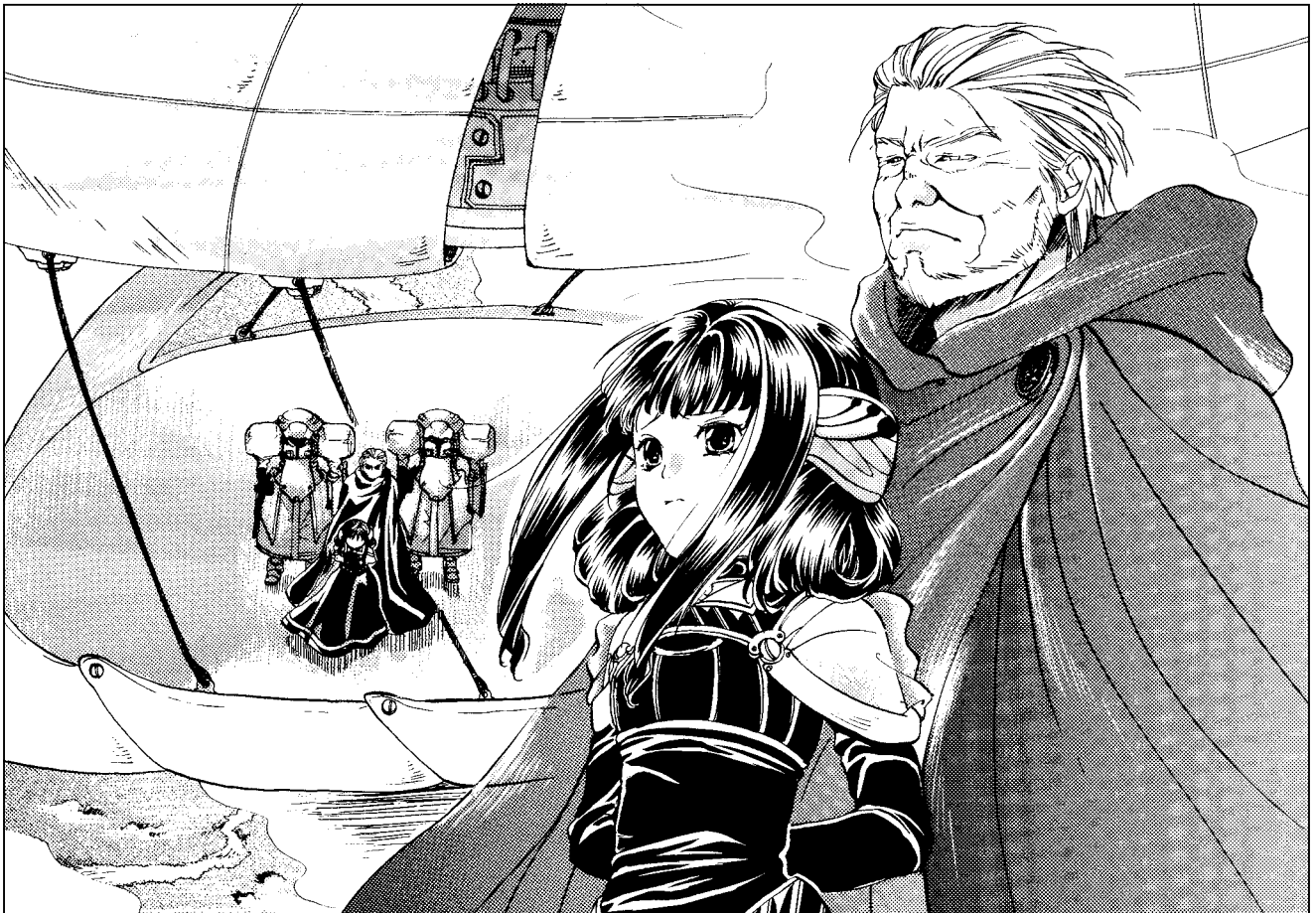
そして、それをきっかけに、プリムローズと帝国の間には、本格的な武装闘争が繰り広げられていくことになってしまう。

シーン 12：ソフィーの助力

このシーンの戦闘では、基本的にソフィーは隠れており、戦闘には参加しない。また、PCを助ける行動も取れないものとする。

ただし、GMIはPCの人数が4人以下で、戦力が足りないかと判断した場合、ソフィーをクエスターとして扱い、以下の加護を使用させてもよい。

- イドゥン
- イドゥン
- プラギ



「よからう、貴様は特に念入りに入つ裂きにしてくれるわ!」

(PC④へ)「友のために命を捨てるか。敵ながら見事な覚悟だ」

「せめてもの情けだ、苦しまぬように殺してやる」
(PC⑤へ)「エクスカリバー……。奈落の力を理解できぬ、愚か者たちか」

「その目に奈落の素晴らしさを焼きつけ、死ぬがいい」

◆結末

すべての敵を倒せば、戦闘は終了となる。ランゼルは断末魔の叫びを上げ、甲板から落下し、海へと没する。

エンディングフェイズへ移行すること。

エンディングフェイズ

●シーン 13：黒き鯨の最期

シーンプレイヤー：PC③

◆解説

全員登場。飛空船から脱出するシーンである。脱出するために判定などは必要ないが、寄り道をしている時間はない。艦内にはまだ多くの帝国兵が残ってはいるが、彼らは攻撃してこない。

なお、プレイの展開などによっては、このシーンを飛ばしてしまってもよい。

▼描写

指導者を失い、パニック状態となった兵士たちの海をかきわけるのは、なかなかの苦勞だった。

しかしなんとか脱出艇までたどり着き、墜落するシュヴァルト・ヴァルフィッシュから逃げ出すことに成功。

◆結末

PCたちが脱出艇に乗り、"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"から脱出すると同時に、戦艦が海へと落下する。シーン終了。

●シーン 14：微笑み

シーンプレイヤー：PC④

◆解説

PC④のエンディングである。PC①、PC③も望めば登場してよい。

ソフィーは助けてくれたことにまず礼を言い、そしてPC④に事件に巻き込んでしまったことを謝罪する。

▼描写

ソフィーは、PC④に向かって言った。

「ありがとう、PC④」

その笑顔ひとつで、すべての苦勞が報われる気がした……。

▼セリフ：ソフィー・ウィルマー

「ごめんなさい、こんなことに巻き込んでしまっで……」

「これからも、至らないわたしを支えてください」

◆結末

ソフィーの感謝に対する、PC④の反応にふさわしい描写を行ない、シーン終了となる。

●シーン 15：反旗の狼煙

シーンプレイヤー：PC②

◆解説

PC②のエンディング。PC②の報告を聞いたハンスは、ソフィーを救出してくれたことを感謝し、PC②にこれからも力を貸して欲しいと頼む。

▼描写

プリムローズのリーダー、ハンスは手放しにキミを褒め称えた。

「ありがとうございます……」

ソフィーを無事に助け出したばかりか、帝国の新造艦を見事に潰したのだ。

▼セリフ：ハンス・ウィルマー

「さすがですね。やはりあなたに頼んだのは正解でした」

「これで、帝国もしばらくはおとなしくしているでしょう」

「ですが、私たちの戦いが終わったわけではありません。これからもあなたの力を貸してください」

◆結末

ハンスの言葉に対するPC②の返事に合わせてシーンを描写し、シーン終了となる。

●シーン 16：ミッションコンプリート

シーンプレイヤー：PC③

◆解説

PC③のエンディング。パトリック・ウォンは、難しい任務を完了させたPC③を手放しで褒め称える。そして、PC③に新たな任務について切り出す。

▼描写

パトリック・ウォンは、踊り出さんばかりの喜びようで、PC③を褒め称えた。

「いやー、ご苦勞さんご苦勞さん!」

▼セリフ：パトリック・ウォン

「今回の件は、ヨルムンガルド社への言い具政になったんじゃないかな。お偉いさんたちもよろこんでたよ」

「それで、帰ってきて早速で悪いんだけどさ、ちょっと頼みたい仕事があるんだよね」

「PC③、悪いんだけどもうひとがんばり、お願

クエストの達成

それぞれのクエストは、PCが生き残り、無事エンディングに到達していれば、達成されているはずである。

なお、倒した敵のレベルの合計は45となる。

いけないかな?」

◆結末

ウォンからの仕事の依頼に対して、PC③の返答したら、それに合った描写を行ない、シーン終了となる。

●シーン 17：平穩

シーンプレイヤー：PC⑤

◆解説

PC⑤のエンディング。シェルリィはPC⑤の報告を聞き、敵を倒したことを褒め、しばしの休息を与える。

▼描写

誰もが寝静まる深夜。キミのもとに再び1枚のコインが届いた。月光に照らされたコインが導師シェルリィの姿を映し出す。

▼セリフ："青の"シェルリィ

「ようやく。これでひとつ奈落が閉じる」

「だが、これが終わりではない。奈落との戦いにいまだ果ては見えぬ。我々は戦い続けねばならぬのじゃ」

「PC⑤よ、これからもエクスカリバーとして、刃を振るってくれ」

「じゃが、今は身体を休めるがいい。新たな戦いに備えてな。お主にシャードの加護があらんことを……」

◆結末

シャルリィとの会話が終わると、彼女の姿は消え、一枚のコインだけが残される。シーン終了。

●シーン 18：妖しき影

シーンプレイヤー：PC①

◆解説

PC①のエンディング。PC①の心の中には、死んだランゼルの姿と、ランゼルを取り巻く奈落の姿が思い浮かぶ。

▼描写

ブリムローズとしての仕事は大成功に終わった。しかし、かつて尊敬したランゼルと、彼を変貌させた奈落という存在がキミの心に、トゲのようなに残っていた……。

◆結末

PC①がこれから進んで行くであろう反帝国の道の先にある、過酷な戦いや、その背後に蠢く奈落の気配を演出し、シーンを終了する。

敵データ&戦闘プラン

"ゲシュペンスト"ランゼル・ベルガー

◆データ

種別:人間 レベル:12 サイズ:1
 体:15/＋5 反:15/＋5 知:18/＋6
 理:15/＋5 意:12/＋4 幸:9/＋3
 命:11 回:7 魔:9 抗:6
 行:10 HP:140 MP:45
 攻:(殴)＋10/物理
 対:単体 射:至近
 防:斬6/刺4/殴8

《BOSS属性》《集団統率》
 《自動再生》《特殊属性耐性I(雷)》
 《猛攻》《なぎ払い》《切り返し》
 《戦闘用電子頭脳》《反動防御機構》
 《電磁縛鎖》《放電結界》

◆攻撃

・《なぎ払い》＋《猛攻》

タイミング:メジャーアクション＋ダメージロール

判定値:11 クリティカル値:10

難易度:対決 対象:範囲(選択)

射程:至近 代償:4MP

ダメージロール:(殴)10＋1D6

範囲(選択)の対象に物理攻撃を行なう。

・《電磁縛鎖》＋《猛攻》

タイミング:メジャーアクション＋ダメージロール

判定値:11 クリティカル値:10

難易度:対決 対象:範囲(選択)

射程:50m 代償:なし

ダメージロール:(雷)2D6

対象を稲妻の鎖によって束縛するオリジナル特技。対象に物理攻撃を行なう。さらに、対象に1点でも実ダメージを与えた場合、対象に捕縛と邪毒を与える。

・《放電結界》

タイミング:セットアッププロセス

判定値:自動成功 対象:範囲(選択)

射程:至近 代償:なし

周囲に電撃を放射し、さまざまなバッドステータスを与えるオリジナル特技。使用時にダイスをひとつ振る。対象に、ダイスの出目に対応する以下のバッドステータスを与える。

1:重圧 2:狼狽 3:邪毒
 4:捕縛 5:マヒ 6:放心

◆加護

ババルドル ババルドル
トール トール
ヘイムダル ネルガル
タケミカヅチ タケミカヅチ
フレイヤ フレイ

■設定

かつてのPC①の教官であった帝国軍大佐。質実剛健を絵に描いたような男で、ともすれば極端な考えに走りがちな帝国軍にありながら、あらゆる物事を視野に入れて考えることのできる人物。

それゆえに、"月の魔女"グナーデ(『ALF』P181)に魅入られることになる。彼女は、ベルガーの心の奥底に潜む闇を目覚めさせようとしたのだ。しかし奈落の力に目覚めた後も、ベルガーの真面目さ、皇帝に対する忠誠心は少しも揺らぐことはなかった。

"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の力で反帝国組織であるプリムローズを壊滅するべく行動しており、そのためにソフィーからプリムローズについての情報を聞き出そうとしている。

機械兵士

種別:人間 レベル:3 サイズ:1
 体:15/＋5 反:15/＋5 知:9/＋3
 理:9/＋3 意:12/＋4 幸:9/＋4
 命:9 回:4 魔:4 抗:5
 行:5 HP:25 MP:10
 攻:(斬)＋8/物理
 対:単体 射:至近
 防:斬5/刺5/殴5

《自動再生》《強化人工筋肉》
 《格闘強化機構》《戦闘用電子頭脳》
 《プレッシャー》
 ・物理攻撃の命中判定のクリティカル値10

◆攻撃

・《プレッシャー》

タイミング:メジャーアクション

判定値:9 クリティカル値:10

難易度:対決 対象:単体

射程:至近 代償:なし

ダメージロール:(斬)8

オリジナル特技。対象に物理攻撃を行なう。対象に1点でも実ダメージを与えた場合、対象に重圧を与える。

■設定

ランゼル直轄のエリート帝国兵。身体ほとんどをカバラ機械に置き換えており、常人をはるかに超える戦闘能力を持っている。

ゾルダート・ガンナー

データは『ALF』P200を参照。



■戦闘プラン

初期配置はPC全員で1エンゲージ。5m離れて機械兵士×2で1エンゲージ。さらに5m離れてランゼルとゾルダートガンナー×2で1エンゲージとなる。

ランゼルは自身のエンゲージにPCがいる場合、セットアッププロセスに《放電結界》を使用する。さらにメジャーアクションで《なぎ払い》を使用し、PCを攻撃する。

自身のエンゲージにPCがいらない場合、セットアッププロセスに《集団統率》を使用し、ゾルダート・ガンナーにPCを攻撃させる。また、メジャーアクションでは《電磁縛鎖》を使用して、一番PCの多いエンゲージを攻撃する。

加護は《バルドル》は機械兵士の攻撃を成功させるために使用し、他の加護は攻撃を成功させるために使用する。

機械兵士は《プレッシャー》を使用して物理攻撃を行ない、PCに重圧を与える。PCがランゼルのエンゲージに近づこうとしたら、なるべくそれを妨害するように移動や攻撃を行なう。

ゾルダート・ガンナーは一番最初のメジャーアクションで《奇襲攻撃》を行ない、以後は物理攻撃でPCを攻撃し続ける。

■PC人数が少ない場合

PCが4人の場合:ランゼルの【HP】を120に変更し、すべての防御修正を－2する。

PCが3人の場合:ランゼルの【HP】を100に変更し、すべての防御修正を－4する。

シナリオハンドアウト

各PCには以下の設定がつくので、キャラクター作成の時によくプレイヤーと相談すること。

- PC①：プリムローズメンバー。元帝国軍人
- PC②：プリムローズメンバー
- PC③：ゼネラルマテリアル社のエージェント
- PC④：ソフィーの友人（プリムローズのメンバー）である
- PC⑤：エクスカリバーメンバー

PC①用ハンドアウト

コネクション：ランゼル・ベルガー 関係：恩師

クイックスタート：パンツァーリッター コンストラクション：指定なし

現在は反帝国組織プリムローズに身を置くキミは、かつては帝国兵としてその槍を振るっていた。帝国の腐敗、帝国の卑劣さをイヤというほど味わってきたキミだが、そんな中でも尊敬すべき人物はいた。キミに戦う術を叩き込んでくれた教官ランゼルがそれだ。そして、キミは反帝国活動の最中、ランゼルとの再会を果たす。

PC②用ハンドアウト

コネクション：ハンス・ウィルマー 関係：同志

クイックスタート：ウィザード コンストラクション：指定なし

キミは反帝国組織プリムローズの活動に参加し、強大な敵を相手に奮闘している。反帝国活動の最前線で活躍するキミの力は高く、幾度となくプリムローズの危機を救ってきた。

あるとき、キミはリーダーのハンス・ウィルマーから呼び出しを受けた。どうやら新たな危機が迫ってきているようだ。

PC③用ハンドアウト

コネクション："シュバルツ・ヴァルフィッシュ" 関係：ビジネス

クイックスタート：エージェント コンストラクション：エージェント

キミは、ゼネラルマテリアル社に勤める、いわば秘密工作員だ。これまで、そしてこれからも、表沙汰にできない任務を確実にこなす。ウォンからの呼び出しを受け、キミは彼のもとを訪ねる。そして、いつも通り無茶な任務を頼まれるのだ。今回、キミに託された任務。それは帝国の新型戦艦を破壊するというものだった。

PC④用ハンドアウト

コネクション：ソフィー・ウィルマー 関係：友人

クイックスタート：ハンター コンストラクション：ファイター

"学生"ソフィーの友人であるキミが、彼女のもうひとつの顔を知るのにそう時間はかからなかった。悩み、苦しみつつも進み続ける彼女の姿に共感し、キミもプリムローズに参加することにした。いまや、キミはソフィーのよき同志である。そんなソフィーが帝国軍に捕まったという。一刻も早く、彼女を救い出さなくては。

PC⑤用ハンドアウト

コネクション："青の"シェルリイ 関係：師匠

クイックスタート：ヴァルキリー コンストラクション：特になし

キミは、奈落をこの世から消し去るべく活動しているエクスカリバーの一員である。エクスカリバーの証である1枚のコインが月光を浴びたとき、導師のおぼろげな姿が浮かび上がる。「新たな奈落の気配が出現した」幼き顔の導師は、ゆっくりとそう言った……。

シナリオ「ヴァルフィッシュ」 プレイレポート

●概要

本シナリオは帝国軍によって連れ去られたソフィー・ウィルマーというヒロインを、PCたちが帝国の新型戦艦"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"に潜入し、救出するシナリオである。

PCたちは、目の前に立ち塞がる障害をクリアしながら、それぞれが持つ目的を果たすために協力し、戦艦"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"を攻略することになる。

シナリオの展開はシンプルなものになっているため、GMはテンポのよいシナリオ進行を心がけるとよいだろう。

●ソフィー・ウィルマーについて

ソフィーはプリムローズの象徴的な存在であり、本シナリオで助けるべきヒロインだ。GMは彼女の存在が、プリムローズにとってどれほど重要であるかをうまく演出することで、PCたちのソフィーを助けるためのモチベーションを高めることができるだろう。

なお、テストプレイでは、GMがPC②とPC④の

オープニングにおいて、ソフィーが失われた場合に起こるであろう、プリムローズの変化(武装闘争への方針の切り替え)などを細かく描写し、ソフィーを助けなくてはならないという気持ちを引き出していた。

●ランゼル・ベルガーについて

ランゼルはPC①のかつての乗艦であった男であり、現在は奈落の力によって、帝国のためならば、どのような非道も行なえる人物となってしまっている。

GMはランゼルをうまく利用することで、PC①をより深く感情移入させることができるだろう。

なお、テストプレイでは、GMがPC①とランゼルの過去の思い出を回想させ、より深くふたりの奸計を描写することで、PC①のランゼルに対する気持ちを強めていた。

●シーン 5 について

シーン 5 はPC全員が合流できる最初の機会となる。GMはPCへの登場を積極的にうながし、PC

の合流を進めるとよいだろう。

なお、テストプレイでは、GMはさらにPC同士の会話の時間を設けていた。これにより、PC同士が理解し合うことができ、全員が協力してソフィーの救出や"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の破壊を行なうようになっていた。

●シーン 9 について

シーン 9 は"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"に秘められた謎を開示するシーンである。ここでGMはこの新型戦艦が持つ危険性を強調するように演出を行なうとよい。

なお、テストプレイでは機関部が奈落到汚染されているという演出の他に、エキストラの帝国兵を登場させ、その帝国兵が機関部の奈落到飲み込まれるという演出を行っていた。

これによりPC全員が"シュバルツ・ヴァルフィッシュ"の危険性を理解し、PC③がスムーズに任務をこなせるようになっていた。